

第 103 回エフエム熱海湯河原 番組審議委員会 議事録

- 1 開催日時 平成 30 年 7 月 19 日 (木) 13:30~14:30
- 2 開催場所 湯河原町中央 2-2-1 湯河原町役場 第 2 庁舎 3F 会議室
- 3 委員総数 12 名、出席委員数 7 名、欠席委員数 5 名
出席委員：深田真弓、富岡久和（代理：池田佳世）、小山みどり、西海裕代、
石黒英亀、力石朋香、小泉貴博
欠席委員：舘石晃一、出口直樹、浅沼宇雄、大武宏、苅谷和彦
放送局側出席者 野原裕、山崎浩一、金井周平
陪席：熱海市秘書広報課課長 高久浩二
- 4 委員長挨拶 深田真弓
- 5 前回審議番組の経過 開催通知に議事録を添付した。
- 6 議 事

番組へのご意見

聴取対象番組：2018 年 7 月 11 日 (水) オンエア「Ciao! 防災研究所」

委員からの意見

- ・ 堅苦しく無く入り込みやすくて良い。
- ・ 関東大震災の記録の朗読では初めて耳にする数字などもあり勉強になった
- ・ このあたりは意外と大きな被害の経験が無いので、実際に災害が起きた時に対応できるようにするためにも、常にこのような番組が流れているのは良い
- ・ 西日本豪雨の影響で、湯河原町と親善都市提携している広島県三原市でも多くの方が亡くなられたり大きな被害があり、町でも物資搬送や職員派遣の支援を実施しているが、西日本ということでもだどこか他人事のように思っているところもある。このような時期だからこそ防災の事が聴いている人たちに心に響くと思う。西日本の人たちの事を思いながら自分たちの問題に置き換えていく必要がある。
- ・ 架空の防災研究所という設定でお子さんも楽しみながら聴ける。
- ・ 防災カード作成は大きさなど丁寧な説明でわかりやすくて良い。
- ・ 関東大震災の話は身近にどんな震災があったのか、自分たちの地域でも災害があるんだという事を実感し危機感を持つことが出来て良い。
- ・ 防災研究所でリスナーが研究員と一緒に学んでいくという切り口が印象に残った。
- ・ 防災カード作成についての補足的なコメントで自分の世代もスマホばかりに頼っている所以自分の事のように聴けた。
- ・ これを聴いて自分も聴きながら防災カードを実際に作った。そのぐらいリスナー目線だと感じた。
- ・ 過去の文献の朗読は自分の知っている地名が出てくることによって、も

し今震災が来たらこのような被害が出るという具体的な想像が出来た。

- ・有事の際にコミュニティ FM としての役割を期待できる内容だった。
- ・防災という堅いイメージが無く親しみやすい内容なので子供にも伝わりやすく良い
- ・自分から防災について情報収集しようとする人は少ないと思うのでラジオで定期的にこのような番組があると家庭でも危機管理について考えるきっかけになって良い。
- ・防災カードの作成は自分の身に当てはまる事だと感じた。
- ・これからも継続してほしいと思わせる良い内容だった。
- ・ラジオからの情報はその時一瞬は良いと思うが聞き流してしまう場合があるが、この番組で防災カードを作っているシーンではパソコンをタイプする音など明確に情景が浮かんで記憶に残る内容だった。
- ・リスナーを巻き込んで実際に防災カードを作った感覚にさせているのが良い。
- ・印象に残るので、その時カードを作らなくても次に作る時につながる。
- ・ラジオの役割は耳から入ってくる情報を実際に行動につなげていくのがカギになるので臨場感が大切。カード作成は5～10分で実際に自分でもできる時間が良い。すぐ行動につなげられる番組になっている。
- ・ポイントをとらえている良い企画の番組。形骸化しないようこれからも色々なテーマで続けてほしい。

7 その他

- ・夏季特別番組、イベントスケジュールを紹介した

8 挨拶 (株)FM 熱海湯河原 代表取締役社長 野原裕

- ・来年4/14で開局20周年ということで様々なリスナー参加型企画を実施して行きたい
- ・開局20周年を記念して 熱海湯河原「歩く民話」(仮)を企画している
- ・先月6月の総会で社長に再選されたので今後とも宜しくお願いしたい。

9 その他参考となる事項

番組審議委員会の開催日を委員に諮ったところ、
次回は、平成30年9月20日(木)に熱海で開催することになった。